

MMTポリティクス ～現代貨幣理論と日本経済～

2019 Mar 17
経世論研究所 所長 三橋貴明
takaaki.mitsubishi@jcom.home.ne.jp

MMT(現代貨幣理論)における財政の考え方

現代貨幣理論の特徴

① 自国通貨を持つ政府は、財政的な予算制約に直面することはない

日本円建ての国債しか発行しておらず、自国通貨を持つ日本政府が財政破綻することはない

② 全ての経済は生産と需要について実物的あるいは環境的な限界がある

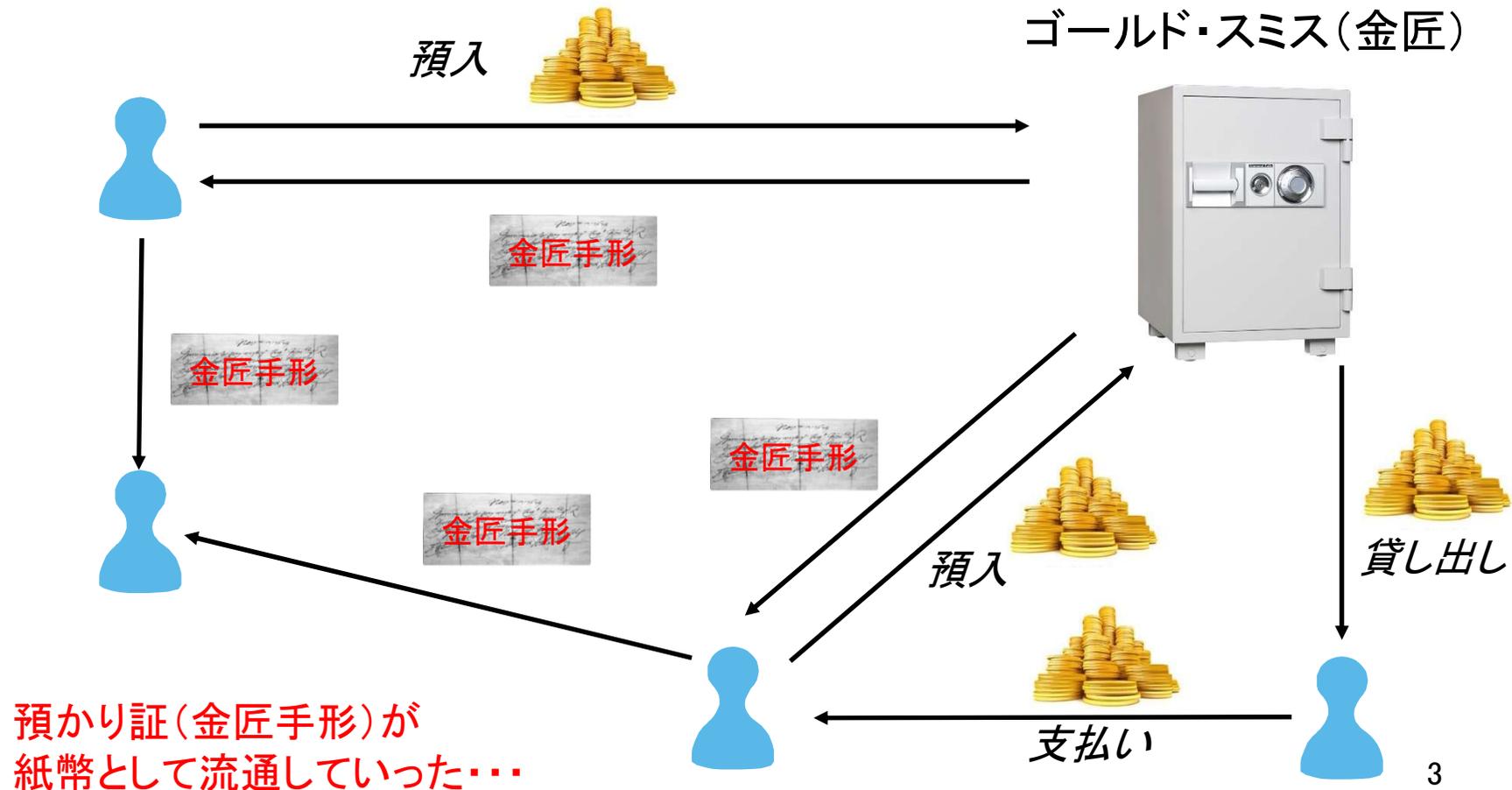
政府におカネ的な制約がなかったとしても、供給能力の不足によるインフレ率が限界になる。供給能力(=経済力)は、民間や政府の投資により強化される。経済力強化は、国債発行の上限を押し上げる。

③ 政府の赤字は、その他の経済主体の黒字である

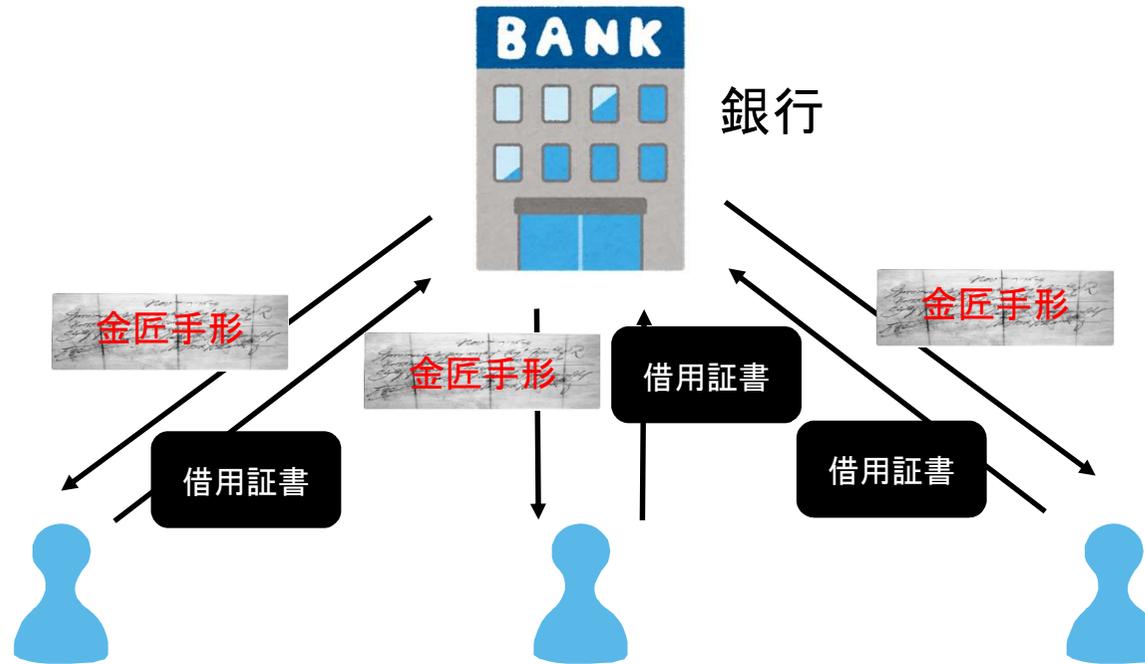
誰かの資産は、誰かの負債。誰かの黒字は、誰かの赤字。地球上に住んでいる限り、逃れられない法則である。

英国の金細工商ゴールド・スミス(1650年代)

「金貨は心労をもたらすが、金貨の欠如もまたしかりである。しかしながら、後者の場合は心労はあるていどの金額を手にはすれば軽減するが、前者のそれは、多く持てば持つほどいっそうつのもつという点に違いがある(セルバンテス)」



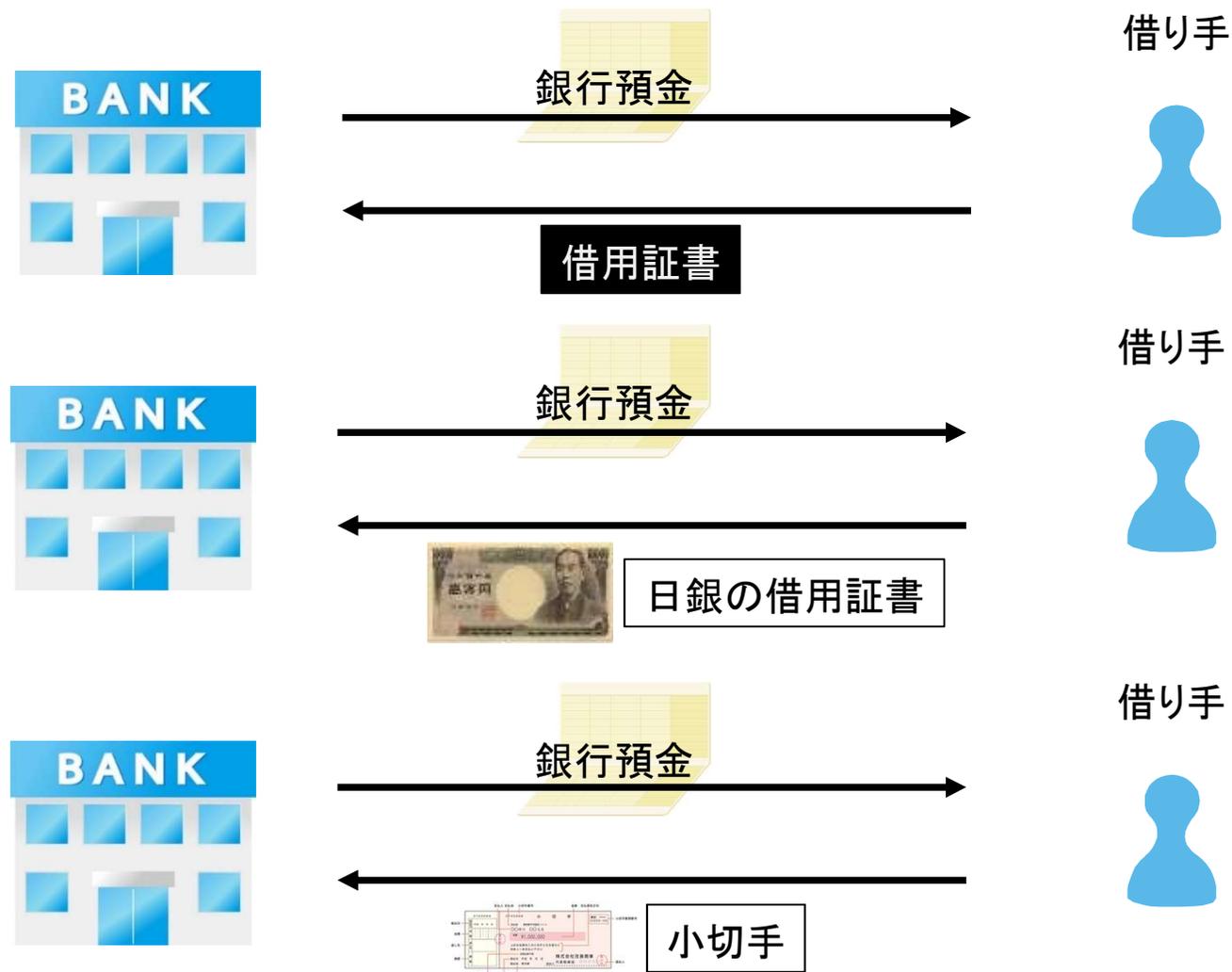
現代的な銀行業の成立



借り手が現れた際には、貴金属ではなく金匠手形を渡せば、それで「通貨発行」となる。実際の貴金属の保有高とは「無関係」に、金匠手形という「おカネ」を貸し出すことで、ゴールド・スミスは金利収入を得ることが可能になった。

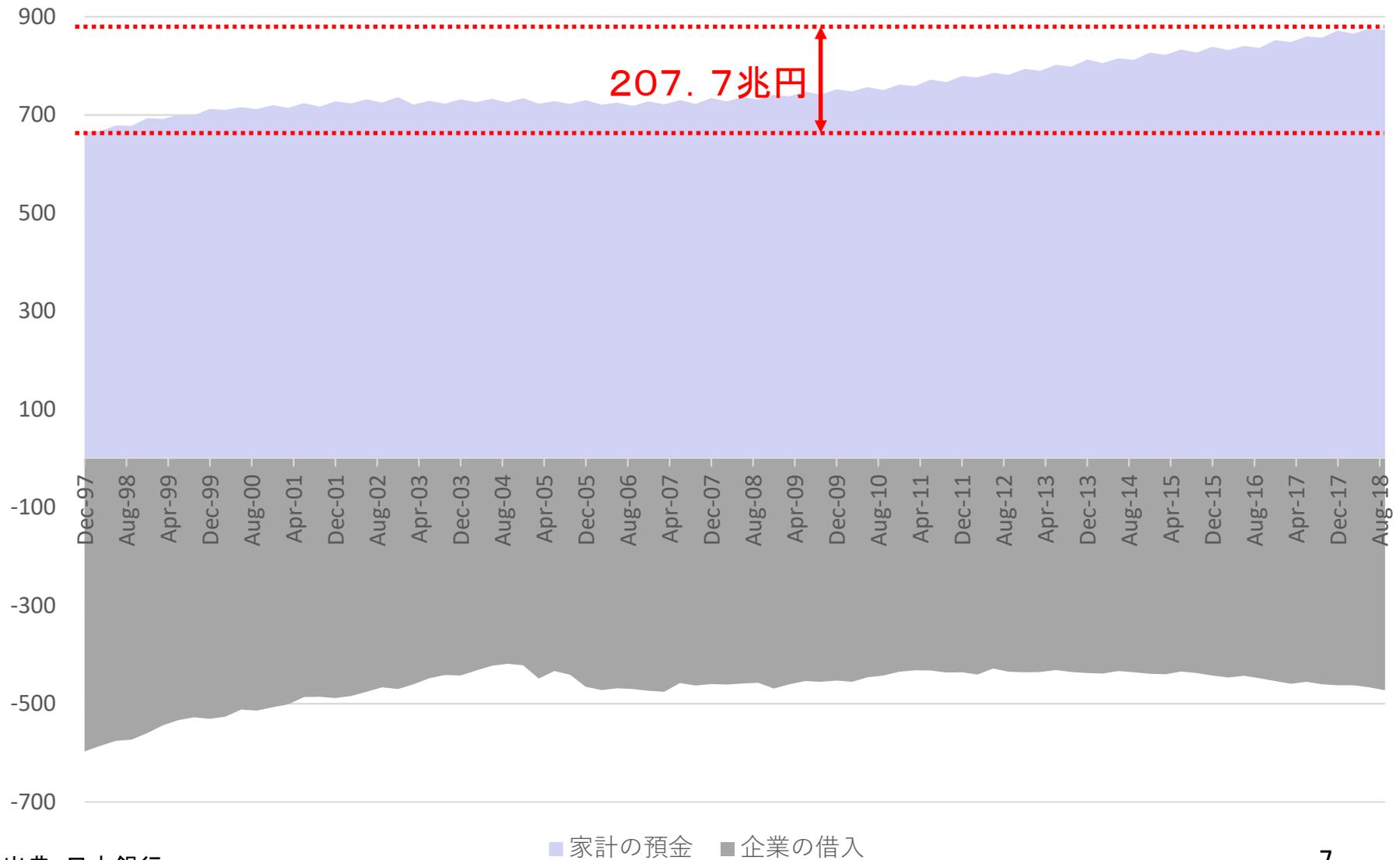
現代的な「銀行業」が成立した瞬間である。

銀行のおカネ発行プロセス



銀行は、何らかの借用証書と引き換えに、銀行預金というおカネを「ゼロ」から発行する。

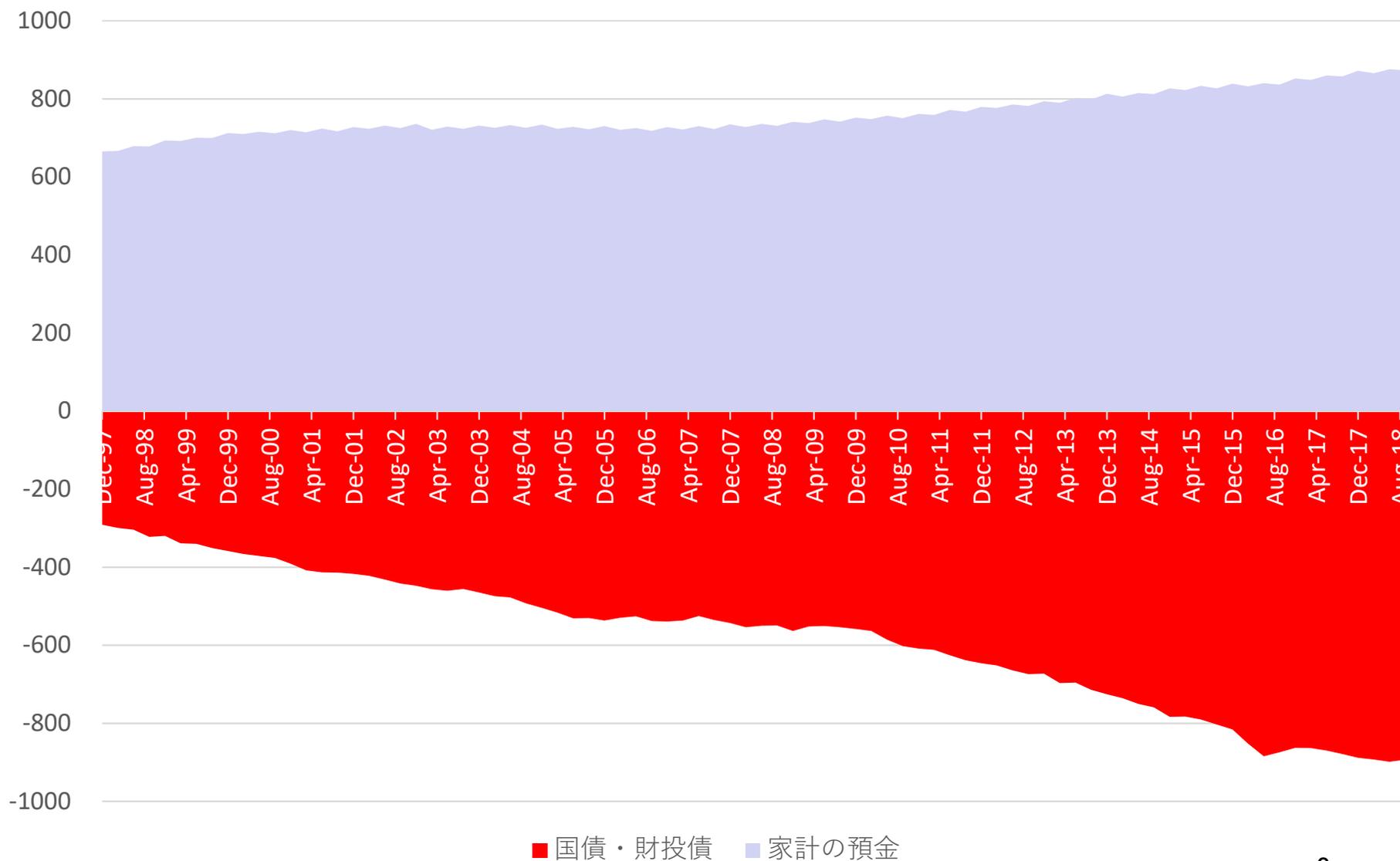
日本の家計の預金と企業の借入の推移(兆円)



出典: 日本銀行

※企業(非金融法人企業)の借入についてはマイナスで表現

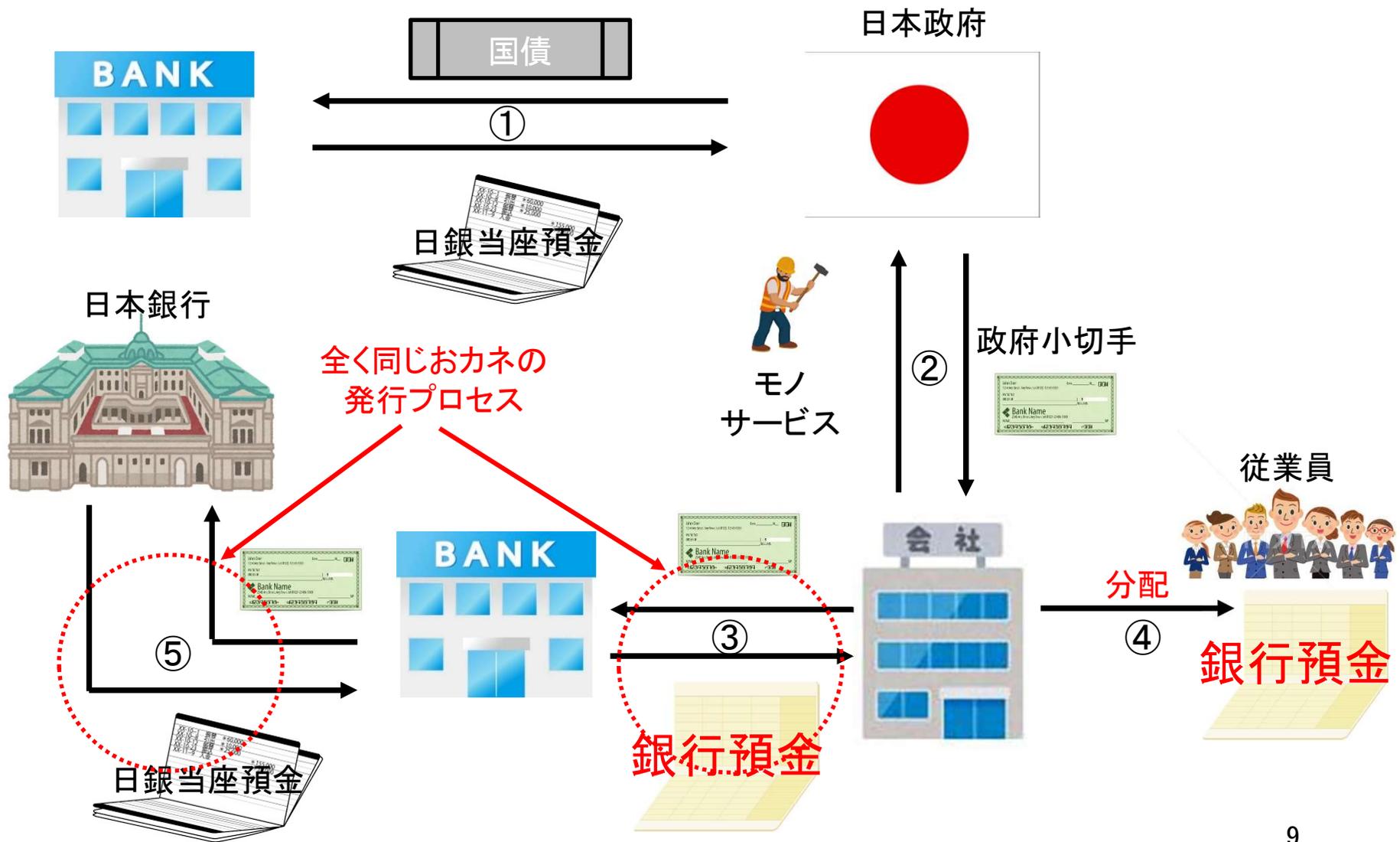
日本の家計の預金と国債・財投債(兆円)



出典: 日本銀行

※国債・財投債についてはマイナスで表現

政府が国債を発行すると、家計の預金が増える



天動説な経済学「おカネのプールがある」

経済学はおカネのプールが存在し得ると考えている。
(貨幣ヴェール論)

物理的に有限なおカネのプールから政府が国債発行でおカネをたくさん借りると、残りのおカネが少なくなり、金利が上昇する。

中央銀行がおカネを発行すれば、「おカネ>モノ・サービス」になるため、物価が上昇する。

日本人のお金持ちが資産を海外に移すと、国債を買うお金が無くなり、破綻する。

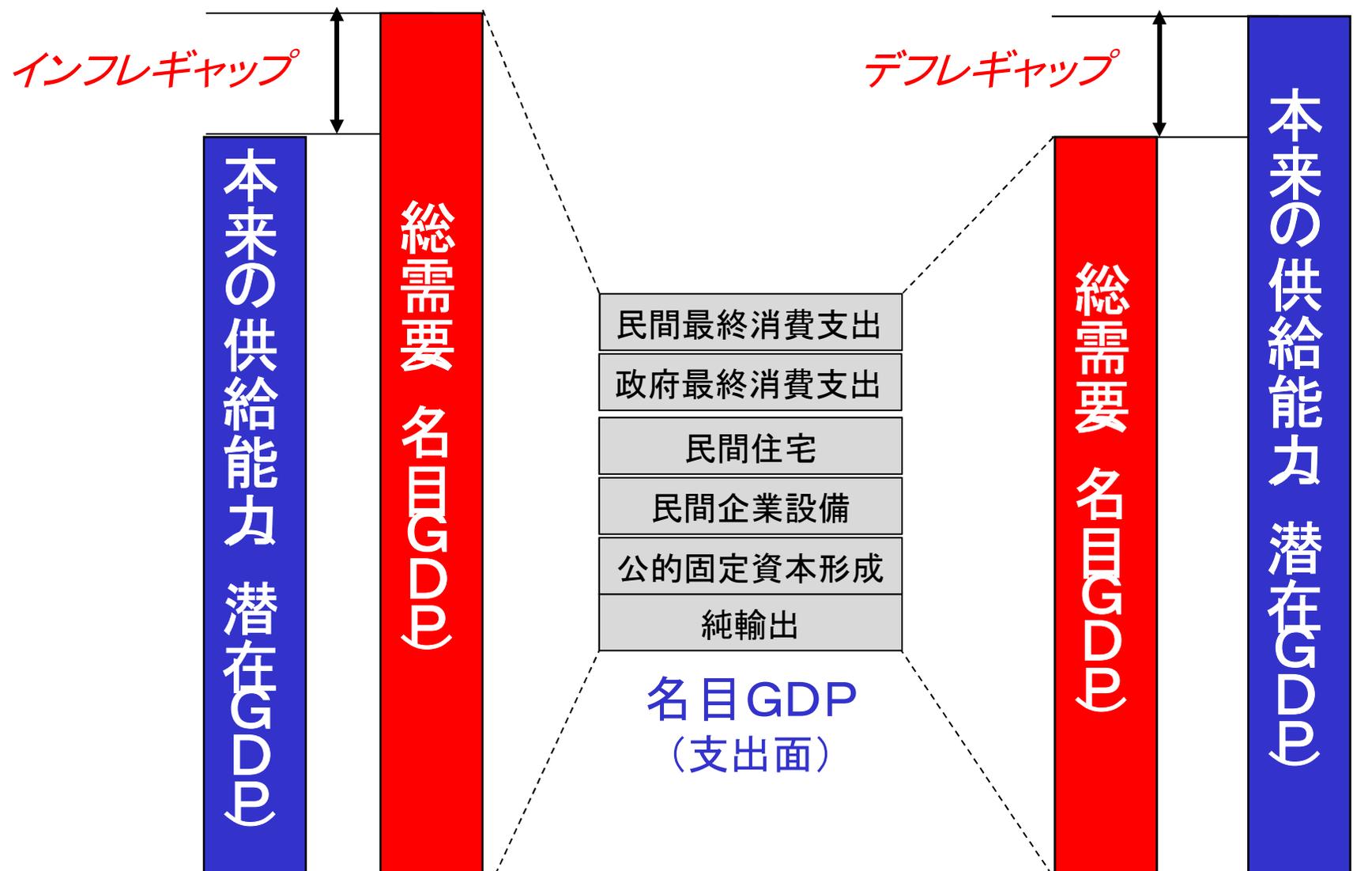
インフレ率は金融政策によりコントロールできる。

！
国の借金が家計の金融資産を超えると、国債のファイナンスができなくなり、破綻する。

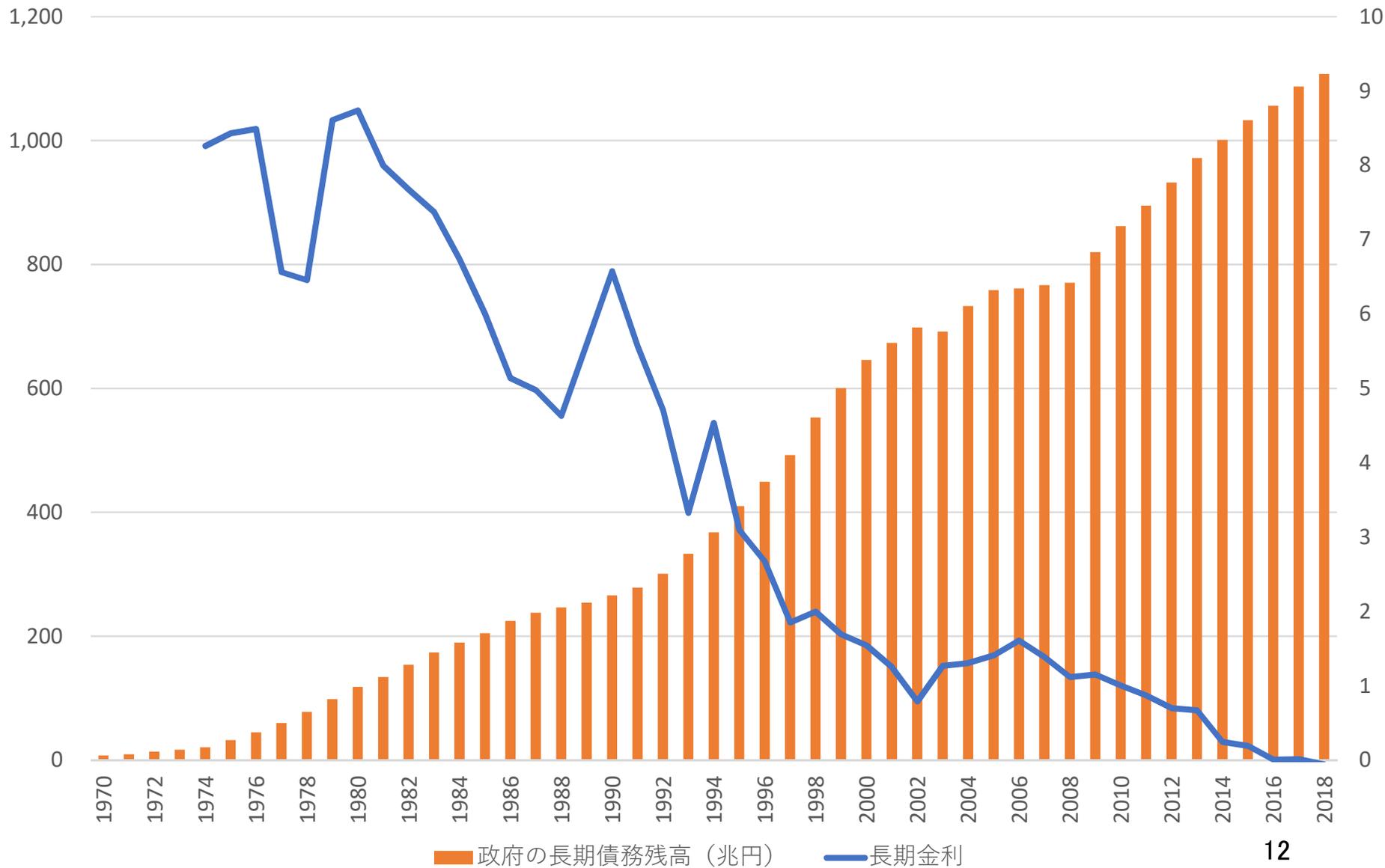
今は確かに国民の金融資産が十分で破綻しないかも知れないが、将来的には高齢化で家計が預金を取り崩すようになり、国債のファイナンスができなくなって破綻する。

全て嘘

インフレギャップとデフレギャップ

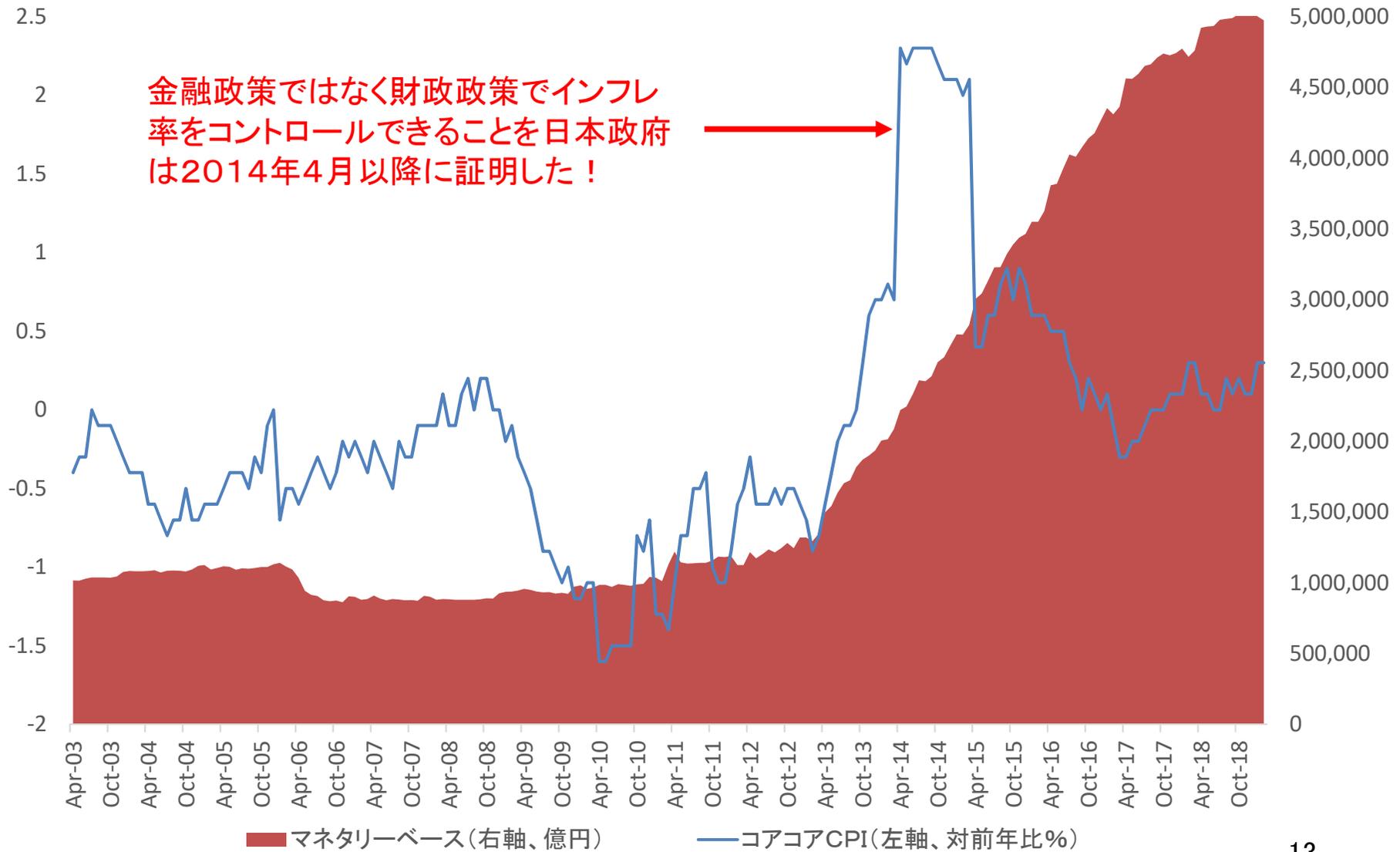


日本の負債(兆円)と長期金利(%)の推移

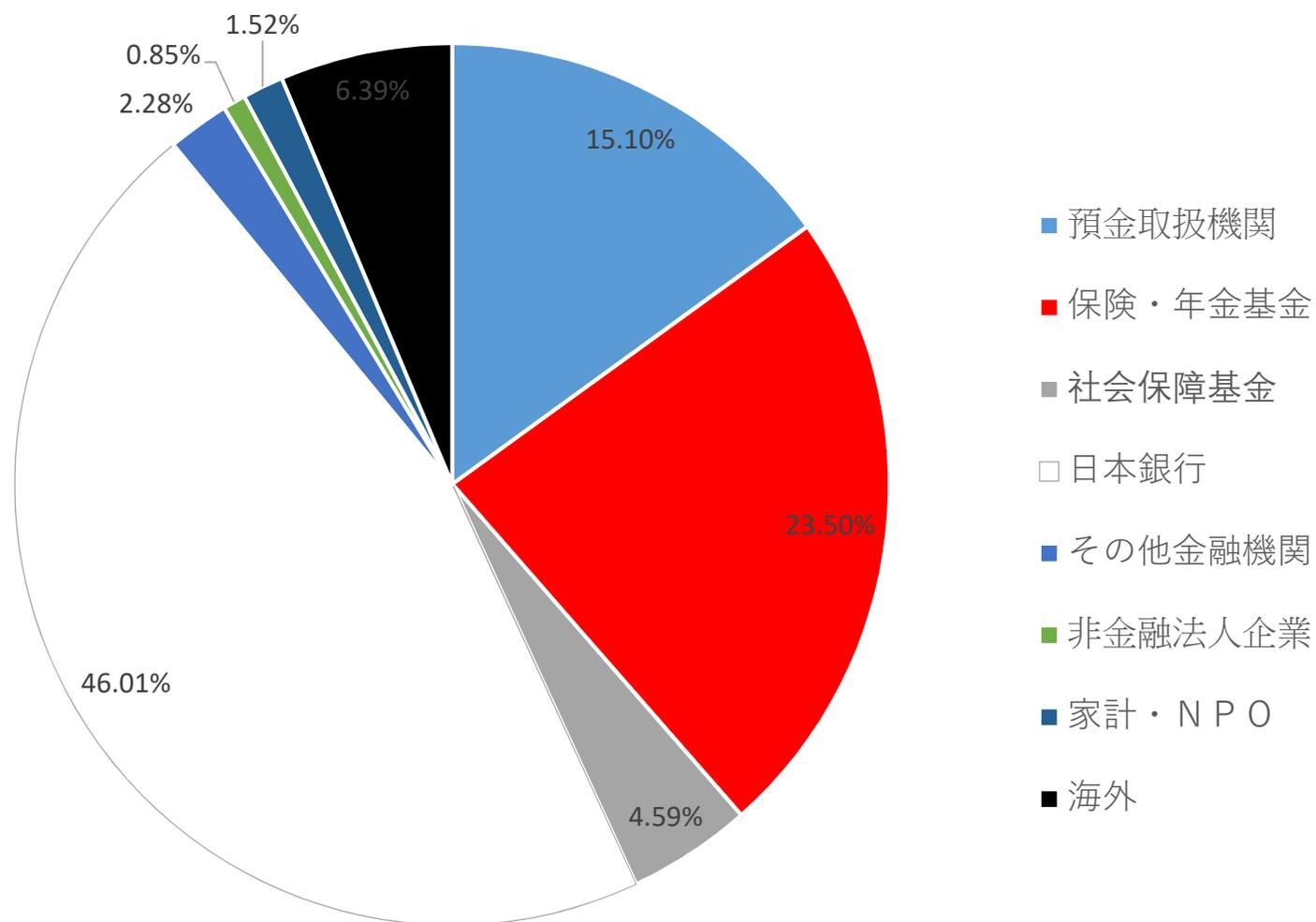


出典:財務省

日本のマネタリーベース(右軸)とインフレ率(左軸)

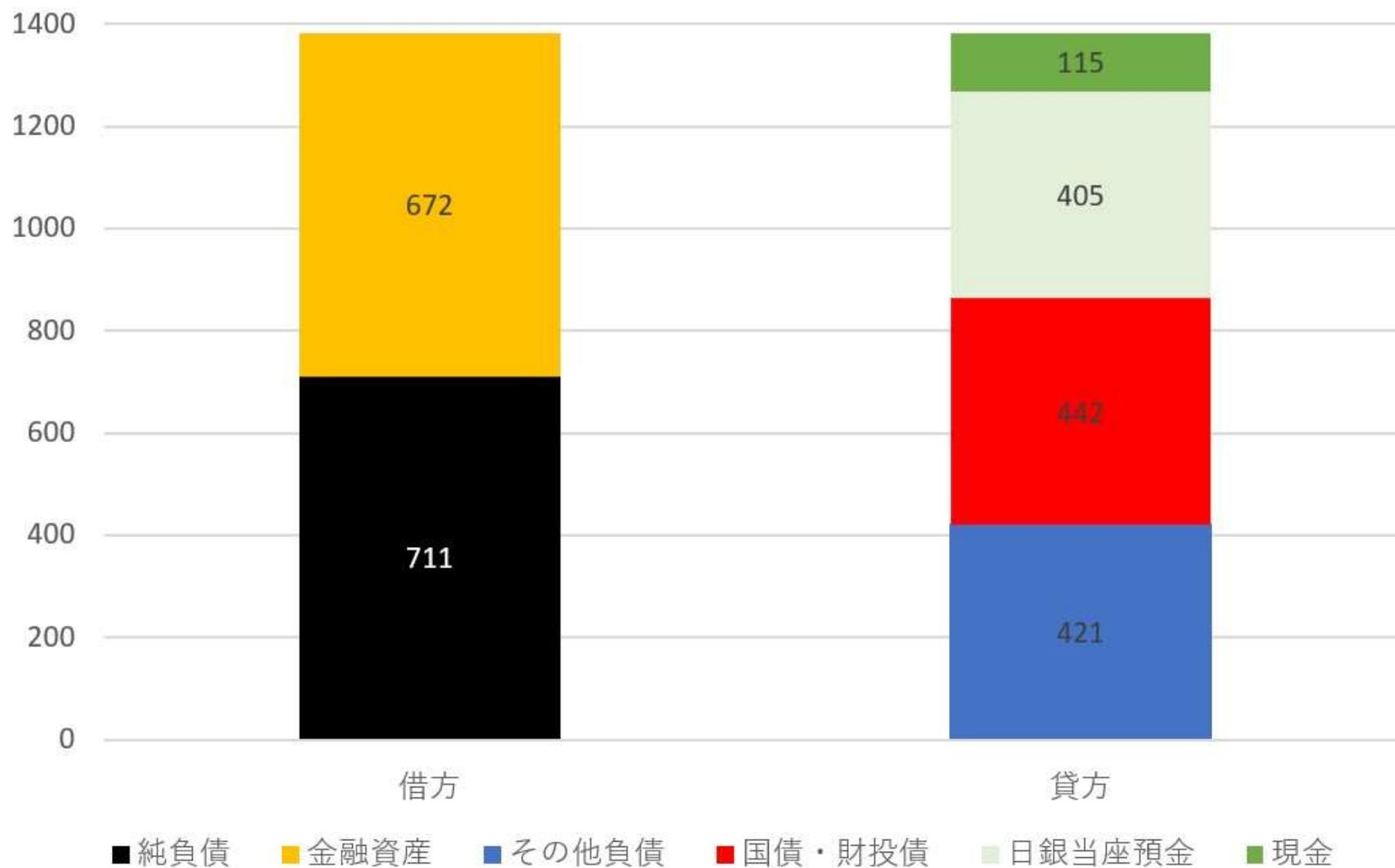


2018年末時点 日本国債・財投債所有者別内訳



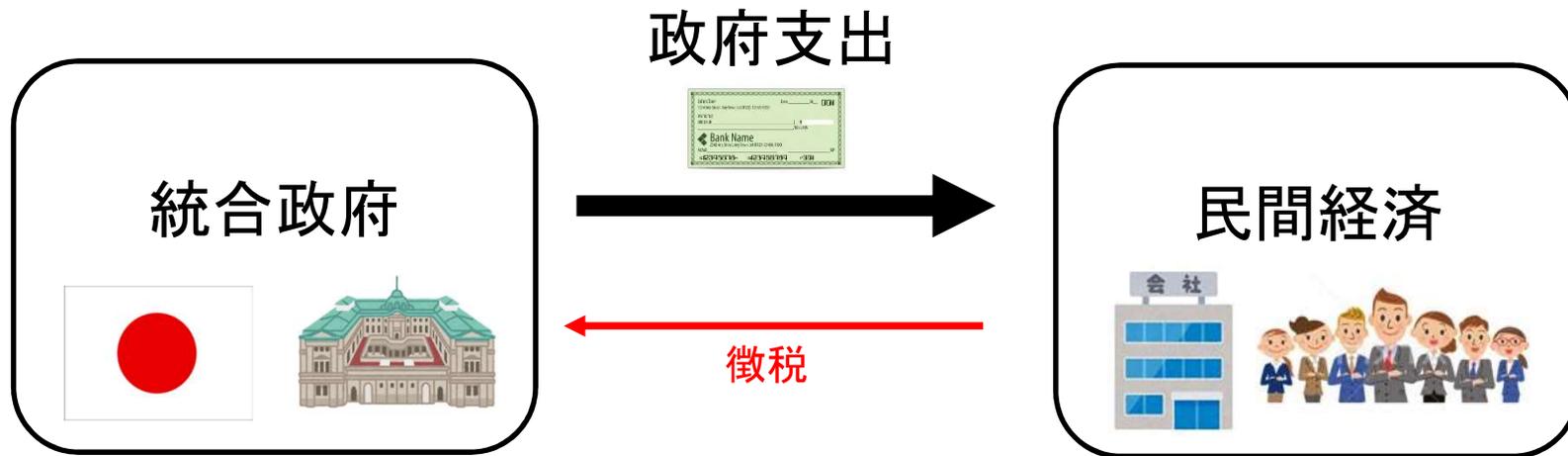
出典：日本銀行

日本の統合政府のバランスシート(兆円)

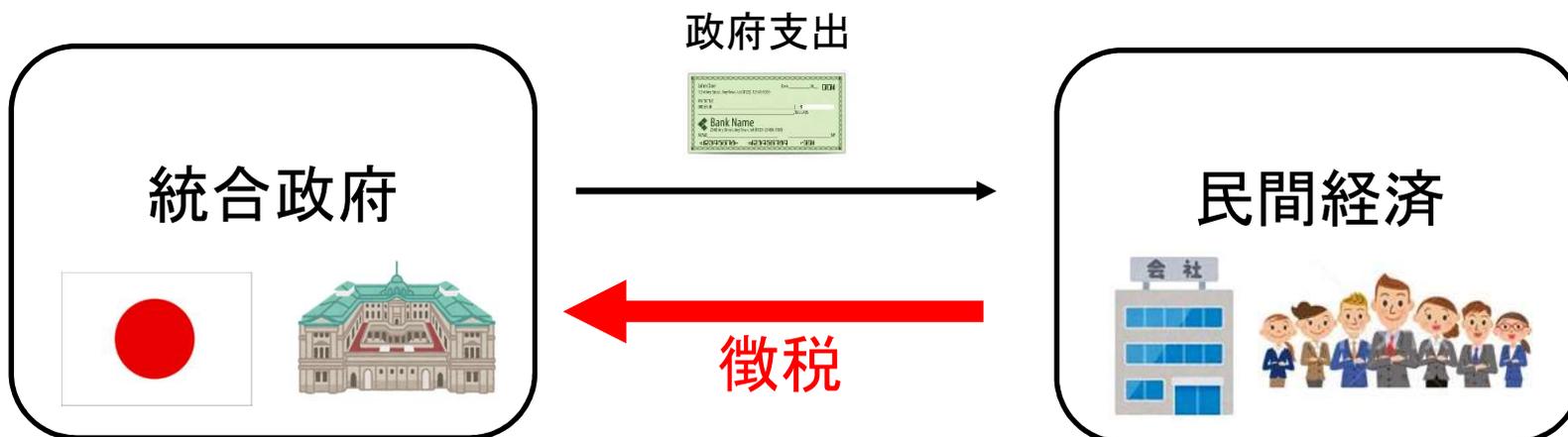


出典: 日本銀行

政府の赤字は民間の黒字

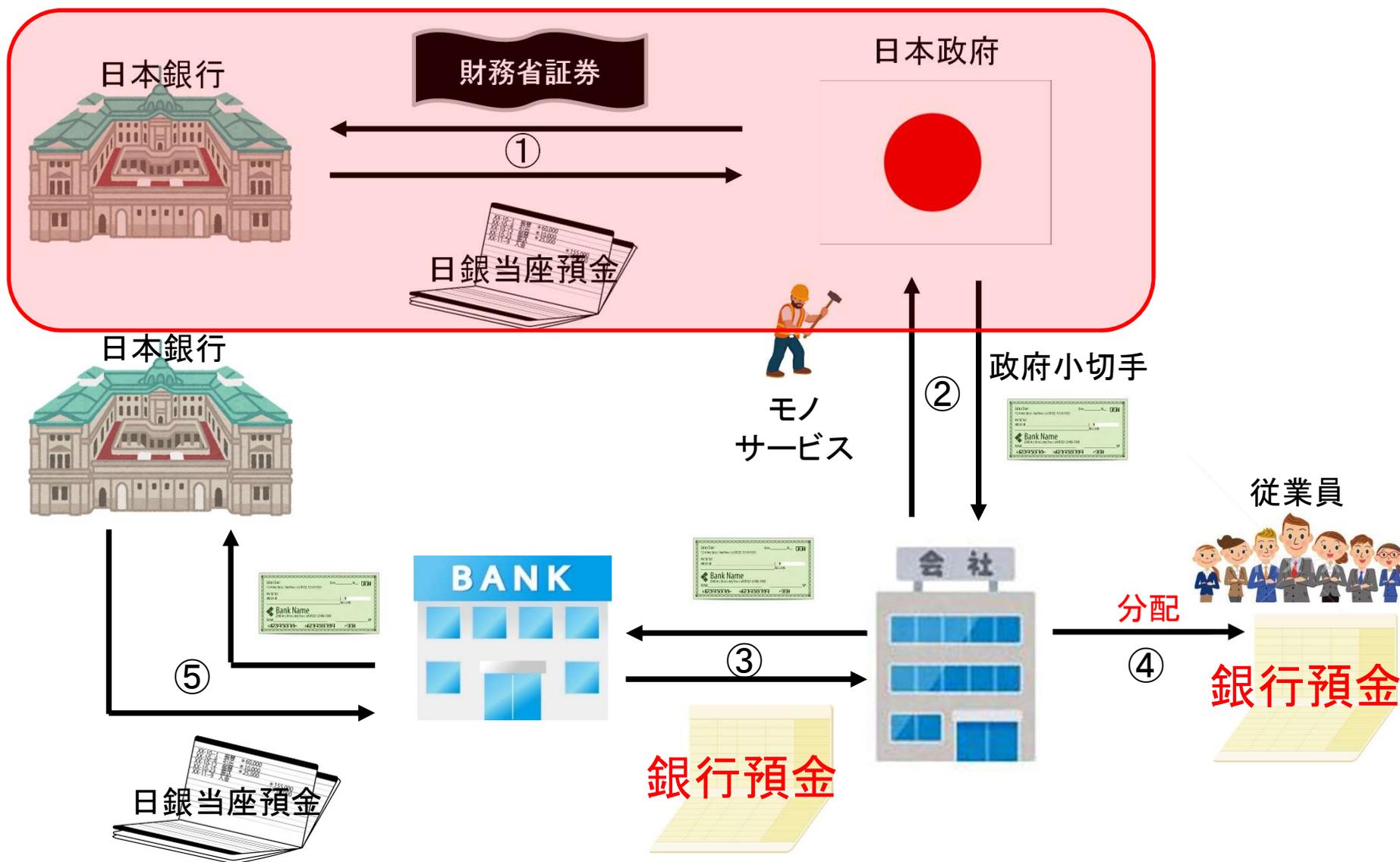


政府は赤字になり、民間は黒字になる。



政府は黒字になり、民間は赤字になる。

OMF (Overt Monetary Financing, 明示的な貨幣供給)



ご清聴ありがとうございました

株式会社経世論研究所

TEL: 03-6890-8366



<https://keieikagakupub.com/38news/>